



南部町立南部中学校 学校だより 第13号

チーム南部中

令和3年10月26日(火)
校長 望月和彦

峡南地区新人体育大会

10月7日(木)、9日(土)に峡南地区新人体育大会(新人戦)が開催されました。夏に3年生が引退し、1・2年生の新チームになって初めての公式戦です。夏休み後半は感染症拡大のため部活動ができず、輝城祭が終わっても9月末までは他校との練習試合も禁止され、例年より練習時間が少ない状態で迎えた本番でした。昨年度に続き観客なしの大会でしたが、各会場で選手たちは競技ができることに感謝しながら、応援してくれている3年生や家族などの思いを背負って精一杯戦いました。大会の様子を各部の顧問にまとめてもらいました。次の通りです。

女子バレーボール	<p>Aパートで身延中に2-0で勝ち、六郷中に1-2で敗れたものの、決勝トーナメントで市川中・三珠中・増穂中にすべて2-0で勝利し、優勝→県大会へ</p> <p>コロナ禍で練習や練習試合が思うようにできずに迎えた公式戦でしたが、「地区優勝」の目標に向け、チームとして取り組むことができました。2日目は1日目と違い、前向きな声かけや粘り強いプレーが目立ち、「南部中の流れをつくる」ことができていました。特にサーブは大きな得点源となりました。その一方で、焦るとプレーが雑になってしまったり、レシーブに課題が見られたりしました。県大会までに課題点は修正し、南部中の武器は更に磨きをかけて、全員が笑顔でプレーしてほしいです。県大会の目標はベスト8進出。その目標達成に向けて練習に励んでいきたいと思ひます。</p> 
男子バレーボール	<p>市川中と三珠中ともに2-0で勝利し、優勝→県大会へ(オープン参加)</p> <p>夏休み中はコロナの影響で十分な練習もできずに、練習試合の経験もなく、いきなりの公式戦でした。しかし、これまで休日の練習を充実させることにより、個々の技術を少しでも向上させることができました。試合ではその成果を十分に発揮することができ、特にサーブで相手を崩すことができました。そのおかげで、終始試合の流れは南部中にありました。結果は全てストレート勝ちでした。生徒たちの県大会での目標はベスト4を目指して頑張っています。当日までにさらに磨きをかけていきたいと思ひます。</p> 
女子バスケットボール	<p>増穂中に0-55、市川中に22-42でともに敗退</p> <p>この7人で大会に臨むのはこれで4大会目となりました。これまでは常に年上の選手との戦いでしたが、今回の大会では同級生・下級生との戦いとなりました。コロナ禍で練習不足は否めませんが、これまで練習してきたことを随所に出すことができました。特に2試合目の市川中学校との試合では始めて2桁得点をあげることができました。丁寧にディフェンスを行い、そこからオフェンスにつなげることができました。「やってきたことを発揮する」ことをしっかりし、次の大会こそ『勝利』にたどりつけるようになおいっそう頑張りたいと思ひます。</p> 
男子バスケットボール	<p>増穂中に31-59、市川中に20-54でともに敗退</p> <p>新チームになって部員は5人になってしまいましたが、その5人で2試合を戦い抜きました。2試合とも勝つことはできませんでしたが、それぞれの持ち味を発揮し、練習してきたプレーがたくさん見られました。また、接触プレーが生じた後、相手選手に声をかけるようなスポーツマンシップを重んじる行動も見られました。そしてなにより、1人も交代ができないこの苦しい状況を5人で乗り切ったことは、大きな成果であったと言えます。3年生や女子バスケの力を借りて練習を重ねたことが、この大会につながりました。今大会をしっかり振り返り、課題を明確にした上で課題解決に取り組み、1歩ずつステップアップを図って行くことを確認しました。</p> 

軟式野球	<p>Aパート決勝で三珠中に10-8（5回時間切れ）で勝利し、優勝→県大会へ</p> <p>「3年生が引退し、11名のチームになりました。全員が練習に一所懸命に取り組んでいて、驚くほどの成長を遂げています。しかし、11名中8名が中学校から野球を始めたこともあり、試合の経験不足は否めません。以前なら10数試合の練習試合を経るところですが、それもできませんでした。試合は、一時は7点差までリードを広げましたが、エラーやミスが重なり2点差まで詰め寄せられました。それでも、バッテリーを中心に必死で守り切り、三珠中の追撃をかわして勝ちきりました。真面目に練習に打ち込む姿勢が、この勝利を呼び込んだのだのでしょうか。そして、今後もっともっと上手になるだろう、強くなるだろうことが確信できた試合でした。</p> 
女子ソフトテニス	<p>＜個人戦＞佐野結菜・朝夷実来ペアが第3位、芦沢那奈・草場珂奈ペアがベスト6→県大会へ</p> <p>＜団体戦＞予選リーグで2勝、準決勝で市川中に勝利、決勝で増穂中に敗退。準優勝→県大会へ</p> <p>コロナ禍で練習試合などができないままで迎えた大会でしたが、3年生の指導を生かしたり、練習内容を自分たちで考えたりする中で培ったチームワークを生かした個人戦となりました。互いに声をかけあって、最後まで前をむいて戦い抜くことができました。団体戦では個人戦の反省を生かし、さらに8人で心をひとつにして、試合に臨むことができました。サーブ・レシーブの正確さやラケットの引きが遅いなど基本的な課題が明確になったので、11月3日から始まる県大会にむけ、あいさつや脚下照顧や関わりなど日常生活での意識も高めながら、練習の目的をさらに明確にしながら、練習に励んでいきたいと思ひます。応援ありがとうございます。</p> 
男子ソフトテニス	<p>＜個人戦＞田中海成・遠藤星南ペアが第9位→県大会へ</p> <p>＜団体戦＞予選リーグは1勝1敗、準決勝で六郷中に、代表決定戦で身延中とともに敗退し第3位</p> <p>新チームは、1年生9人、2年生2人の11人のチームになりました。これまでは、基本的な技術練習を中心に練習に取り組みました。個人戦では、初めての公式大会で緊張もあったかと思いますが、それぞれがあきらめずに試合に挑みました。団体戦では、全員で声を出し、チームの雰囲気自分たちでつくるということ意識しながら、試合に挑みました。ストロークの安定感のなさ、ファーストサービスの確率の低さなど、大会を通して、たくさんことに気づき、学ぶことができました。これからの練習では、自分や仲間の良い所、課題を見つけ伝え合いながら練習に励んでいきたいと思ひます。</p> 

中高連携事業「ライフミュージアム」

学校を地域に開かれた『博物館』という発想でとらえ、文化交流の一つの拠点として広く開放していくことをコンセプトに16年前から身延高校で『ライフミュージアム』が開催されています。身延高校や身延中学校の生徒作品と一緒に、本校美術文芸部の部員の作品も出品させていただきました。

10月12日（火）には部員たちが身延高校に実際に赴き、自分たちの作品はもちろん、様々な作品を鑑賞してきました。特別展の招待作家山福朱実さんの版画については、高校の美術の先生が解説して下さい、鑑賞がより深いものになりました。輝城祭の取り組みを終え、3年生が引退してしまいましたが、良い作品に触れることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

